

人々の思いと期待が寄せられた「新MRI」の導入。 より精度の高い画像診断で、地域医療に貢献。

二〇二五年三月、岡山旭東病院は、新しいタイプのMRIを導入し、運用を始めた。導入にあたっては、クラウドファンディング

(二〇二三年に実施)による支援を受けており、文字通り地域の人々の思い、同院への期待が込められた新機種導入となった。今回の経緯を奥村部長はこう話す。「当院は、一九八八年の開院当初から当時の最新機器だった超電導磁石式MRI装置を導入し、一九九一年には岡山県で初めて脳ドックを開始するなど、長年にわたって画像診断に取り組んできました。現在、四台のMRIを稼働させており、年間約一万七〇〇〇件の検査を実施。そのうちの約二〇〇〇件は、地域の病院やクリニックからの紹

介で、『地域の画像診断センター』としての役割も果たしています」。

適切な診断と治療に欠かせないMRIは、脳卒中をはじめとした脳の疾患、肩や膝などの関節痛、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、スポーツで生じる膝の靱帯断裂など幅広い診断、さらに整形外科・脳神経外科の手術やサイバーナイフ(放射線治療)、FUS(手のふるえの治療)といった治療に役立っている。CT(コンピューター断層撮影)がX線を利用するのに対し、MRIは放射線を使わず検査を行なうという特長があるが、CTに比べ撮影時間が長くなってしまう。今回導入された新機種の性能を診療放射線技師の池本氏はこう説明する。「ハード面ではより信号を効率的に得られ、重量も軽くなった受信コイルを使用でき、ソフト面ではディープラーニングによる画像処理技術を利用できるようになりました。これによりノイズを低減しながらシャープな画像を得られ、従来のMRIより短時間で高精細な画像が撮影できます。スキャン時間を短縮できる分、患者さんの身体的な負担も軽減すると思います。画質の面でも診断・治療ともにより貢献できると考えています」。

「新しい装置では柔らかく、軽い受信コイルを使用することができ、腰の痛みの強い方が横向きで検査を受けられるなど、患者さんに合わせた検査がより容易になったといえます。開口部の直径は七〇センチと広い設計のため圧迫感が軽減され、検査時間も短縮されたことで、閉所恐怖症の方や長い検査時間に耐えられない方でも、検査できる可能性があります」と奥村部長。さら

には、「当院のMRIは土・日曜、祝日にも他施設からの紹介予約検査へ対応し、夜間・休日の救急当直時間帯にも二六五二四時間、すぐに検査ができる体制となっています」と続けた。

「地域の画像診断センター」として新MRIの導入を機にますます期待がかかる同院。導入には多額の費用が必要だが、今回のクラウドファンディングでは、二八名から合計二〇一万五〇〇〇円の寄付が寄せられた。「当初の目標を大幅に超えた寄付に、驚きと大きな喜びを持って受け止めています。これからの理念である『安心して生命をゆだねられる病院』として、地域の人々に貢献していきたいと思います」と話すふたり。地域医療を向上させる同院の取り組みが期待されている。

お問合せ 岡山旭東病院
☎086・276・3231



放射線課 診療放射線技師
池本裕亮

放射線科 部長
奥村能啓

NEWS



クラウドファンディングのご支援でMRIを更新しました

2023年に実施した「MRI更新のためのクラウドファンディング」を通じて、多くの皆さまから温かいご支援をいただいたことにより、2025年3月に新しいMRIへ更新することができました。感謝の気持ちを込めて、掲載許可をいただいた方々のお名前を記した「寄付者芳名板」を画像センター受付横に設置いたしました。改めまして、ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

クラウドファンディングについて
詳しい報告はこちら▶



No.135

2025
5-6月号

850円
(本体773円)

おとな、暮らし、ときどきプレミアム

オセラ

すこやかな 朝時間

モーニングから始まる一日。

マルシェ&朝市へ。

花のある朝さんぽ。

体を動かす朝活。

今こそ朝麺。

まち・みち案内
香川県 高松市屋島

大人のためのご馳走。

とっておきを探しに。／Doctor's Eye